

## “あなた” への「タッピング」

主幹教諭 松井 直樹

菊の園の木々の葉も日ごとに赤や黄色に彩りをましてまいりました。保護者の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。突然の雨による中断を乗り越えた令和3年度運動会。夢中になって運動に取り組む子どもたちの姿を臉に残したままに、微笑みながら帰宅される保護者の皆様を多くお見かけしました。感染防止対策等へのご協力ありがとうございました。

さて、東京2020パラリンピック競技大会ではある一つの競技から考えさせられることがありました。それは視覚に障がいがある選手の水泳競技です。競技中、アスリートとしての素晴らしいパフォーマンスに加え、目を奪われたのは、プールサイドに立ち、長い棒を持って立つ「タッパー」の存在でした。「タッパー」は泳者がターンやゴールをするために、壁まで残り数メートルの位置まで泳いできた時に、長い棒を使って泳者にタッチ（タッピング）して、壁を前にした泳者に現在地を知らせます。そのことによって、泳者がスピードを落とさずストロークのタイミングが合うようなタッチ動作をしたり、安全なターンができたりますのです。アスリートごとに、そしてその日の体調によってもタッピングの強さ、タイミングは違います。もちろん、棒の届く範囲には限りがありますので、途中は自分の力で泳がなければなりません。さらに、泳者のパフォーマンスはそのたびに変わるので、泳者とタッパーは何度も何度も繰り返し練習します。

このタッピングが「あなた（相手）が安心して気持ちよく前に進むための行為」として考えると、私たちは子どもたちにどんなタッピングができるのでしょうか。感染症が少し落ち着いてきた日々において、久しぶりの「もとの日常生活」はある意味、久しぶりの「新しい日常生活」です。子どもたちがその新しい生活において、1日、次の1日と元気に過ごすためには、もう一度望ましい基本的な生活習慣や今日の学びのふりかえりや明日の学習準備などの学習習慣を整える11月にしたいものです。・いつ（子どものどんな場面でタッピングするのか）・何を（子どもが理解しやすいヒント、望んでいる内容）・どのように（子どもに合ったタッピングの強さ・どんな言葉で、表情で）・繰り返し（泳者とタッパーが何度も何度も繰り返し練習するように）あとはタッピングの届かないところで子どもは頑張ります。その頑張りを認めてあげたいです。

先日、帰宅途中に、本校の児童とお母さん、妹と一緒に親子連れに出会いました。遠くからそのお子さんは最高の笑顔で手を振ってくれて「こんばんは」の挨拶をかわしました。すれ違ったとたんに私の重い足取りが、羽がついたように軽やかになり元気に歩くことができました。歩きながら「笑顔」も最高のタッピングなんだ、身近なところにその方法はあることを実感しました。最後は自分で泳ぐもの、だからあまり難しく考えず「“あなた”が気持ちよくのびやかに泳ぐことができるよう、“あなた”のためにできることは何かを考えていく11月」でよいのです。

いつも温かく本校の教育活動に「協力、支援というタッピング」をしていただきありがとうございます。子どもたちにゴールを急がせるのではなく、自立を性急に求めるのではなく「ゆっくりゆっくり、一歩ずつ一歩ずつ大人へ」・・・そんなタッピング、私も自分の立場でしてみます。

では、11月を気持ちよく泳ぐ子どもたちを「きくまつり」でご覧ください。お待ちしております。